

反射テスト 複素平面 複素関数 02

1. $|z| = 1$ で定義される複素数 z に対して、次の w が作る図形を複素平面上に描け.

(S 級 2 分, A 級 4 分, B 級 6 分, C 級 8 分)

$$(1) \quad w = \frac{z+1}{z}$$

$$(2) \quad w = \frac{z+1}{z-1}$$

2. $|z| = 1$ で定義される複素数 z に対して, 次の w が作る図形を複素平面上に描け.

(S 級 3 分, A 級 5 分, B 級 7 分, C 級 10 分)

$$(1) \quad w = \frac{z-1}{2z}$$

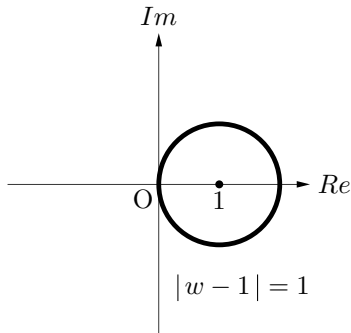
$$(2) \quad w = \frac{iz-i}{z+1}$$

反射テスト 複素平面 複素関数 02 解答解説

1. $|z|=1$ で定義される複素数 z に対して、次の w が作る図形を複素平面上に描け。

(S 級 2 分, A 級 4 分, B 級 6 分, C 級 8 分)

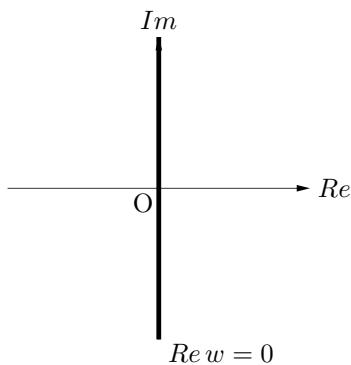
(1) $w = \frac{z+1}{z}$



$z=0$. これは $|z|=1$ 上にないので,
 $w = \frac{z+1}{z} \Leftrightarrow z = \frac{1}{w-1}$
 $|z|=1$ より, $\left| \frac{1}{w-1} \right| = 1$
 $\Leftrightarrow |w-1|=1$
 よって, w は中心 1, 半径 1 の円である.

☆別解 $w = 1 + \frac{1}{z}$ である. $|z|=1$ より, $\frac{1}{z} = \frac{z\bar{z}}{z} = \bar{z}$ であるから, $\frac{1}{z}$ という写像は, $|z|=1$ という中心が原点で半径 1 の円周上の点を, 同じ円周上に移す. $1 + \frac{1}{z}$ より, その円を実軸の正の方向に +1 平行移動すれば良い.

(2) $w = \frac{z+1}{z-1}$



条件から, $z \neq 1$. このとき, $w = \frac{z+1}{z-1} \Leftrightarrow z = \frac{w+1}{w-1}$
 $|z|=1$ より, $\left| \frac{w+1}{w-1} \right| = 1$
 $\Leftrightarrow |w+1|=|w-1|$
 $\Leftrightarrow (w+1)(\overline{w+1}) = (w-1)(\overline{w-1})$
 $\Leftrightarrow w\bar{w} + w + \bar{w} + 1 = w\bar{w} - w - \bar{w} + 1$
 $\Leftrightarrow w + \bar{w} = 0$
 $\Leftrightarrow \frac{w + \bar{w}}{2} = 0$
 $\Leftrightarrow \operatorname{Re} w = 0$
 よって, w は複素平面上で虚軸と一致する直線である.

★ 複素解析 1 次変換 (1 次分数変換)

$w = \frac{az+b}{cz+d}$ の形で表される変換を, 複素解析では z の 1 次変換 (1 次分数変換) という. さらに 1 次変換は円を円に移すことが知られている. (2) の像は直線だが, 複素平面上の直線は無限遠 ∞ ((2) の場合なら, $z=1$ のときの $w=\infty$.) を考えれば, くりりと回ることができ, 半径が無量大の円と言える. 正確には, 複素平面上の直線も円もリーマン球面上の円である.

★ 1 次変換と行列

また, 1 次変換は行列の変換と同値でもある. $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ とおけば, 逆関数は逆行列 $A^{-1} = \frac{1}{ad-bc} \begin{pmatrix} d & -b \\ -c & a \end{pmatrix}$ と対応する.

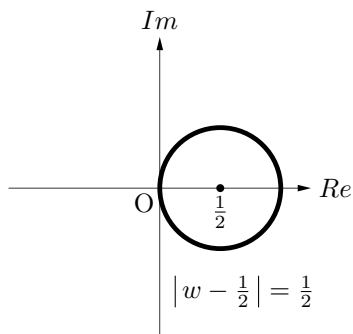
例えば (1) で, $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ とおくと, 逆行列 $A^{-1} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ となり, $z = \frac{0w+1}{1w-1}$ と対応するので, 逆行列を知っていると早く解ける.

さらに, 1 次変換を複数回行いたいときも, 行列の積で考えれば易しい.

2. $|z| = 1$ で定義される複素数 z に対して、次の w が作る図形を複素平面上に描け。

(S 級 3 分, A 級 5 分, B 級 7 分, C 級 10 分)

(1) $w = \frac{z-1}{2z}$



$z = 0$. これは $|z| = 1$ 上にはないので,
 $w = \frac{z-1}{2z} \Leftrightarrow z = \frac{1}{1-2w}$
 $|z| = 1$ より, $\left| \frac{1}{1-2w} \right| = 1$
 $\Leftrightarrow \left| w - \frac{1}{2} \right| = \frac{1}{2}$
 よって, w は中心 $\frac{1}{2}$, 半径 $\frac{1}{2}$ の円である.

☆別解 $w = -\frac{1}{2} \times \bar{z} + \frac{1}{2}$ と考えて, 以下のように分析する.

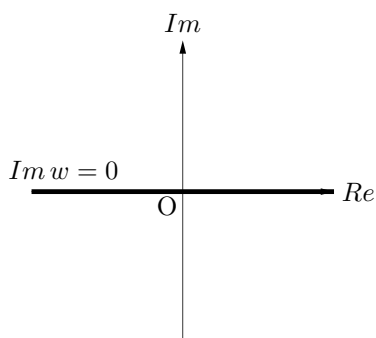
写像	内容	像の変遷
$z_1 \rightarrow \bar{z}_1$	実軸に関する線対称	中心原点, 半径 1 の円
$z_2 \rightarrow \frac{1}{2}z_2$	原点を中心に $\frac{1}{2}$ 倍 (縮小)	中心原点, 半径 $\frac{1}{2}$ の円
$z_3 \rightarrow -z_3$	原点を中心に点対称	中心原点, 半径 $\frac{1}{2}$ の円
$z_4 \rightarrow z_4 + \frac{1}{2}$	実軸方向に $+\frac{1}{2}$ 平行移動	中心 $\frac{1}{2}$, 半径 $\frac{1}{2}$ の円

☆見直し

$|z| = 1$ 上の点を代入してみる.

$z = 1 \rightarrow w = 0$
 $z = -1 \rightarrow w = 1$
 $z = i \rightarrow w = \frac{1}{2} + \frac{i}{2}$

(2) $w = \frac{iz-i}{z+1}$



条件から, $z \neq -1$. このとき, $w = \frac{iz-i}{z+1} \Leftrightarrow z = -\frac{w+i}{w-i}$
 $|z| = 1$ より, $\left| \frac{w+i}{w-i} \right| = 1$
 $\Leftrightarrow |w+i| = |w-i|$
 $\Leftrightarrow (w+i)(\overline{w+i}) = (w-i)(\overline{w-i})$
 $\Leftrightarrow (w+i)(\bar{w}-i) = (w-i)(\bar{w}+i)$
 $\Leftrightarrow w\bar{w} - iw + i\bar{w} + 1 = w\bar{w} + iw - i\bar{w} + 1$
 $\Leftrightarrow w - \bar{w} = 0$
 $\Leftrightarrow \frac{w - \bar{w}}{2i} = 0$
 $\Leftrightarrow Im w = 0$
 よって, w は複素平面上で実軸と一致する直線である.

☆見直し

$|z| = 1$ 上の点を代入してみる. ただし, $z = -1$ は定義されていないので除いて考える.

$z = 1 \rightarrow w = 0$
 $z = i \rightarrow w = -1$